

Isolated Limb Perfusionに関するアンケート調査 調査結果

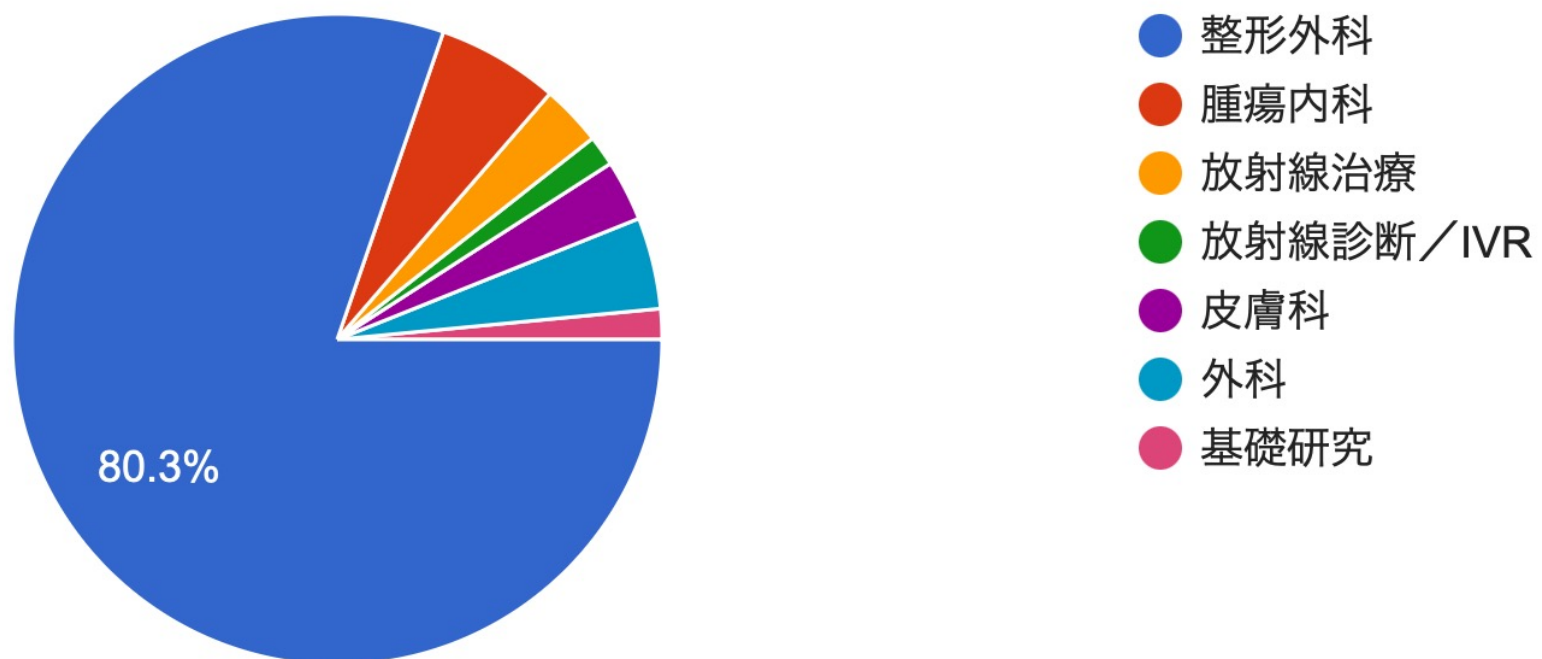
調査期間：2025年3月3日～31日

調査方法：Webアンケート（Google Form）

対象者：JSTAR会員
（四肢発生軟部肉腫に対する診療を行っている医師）

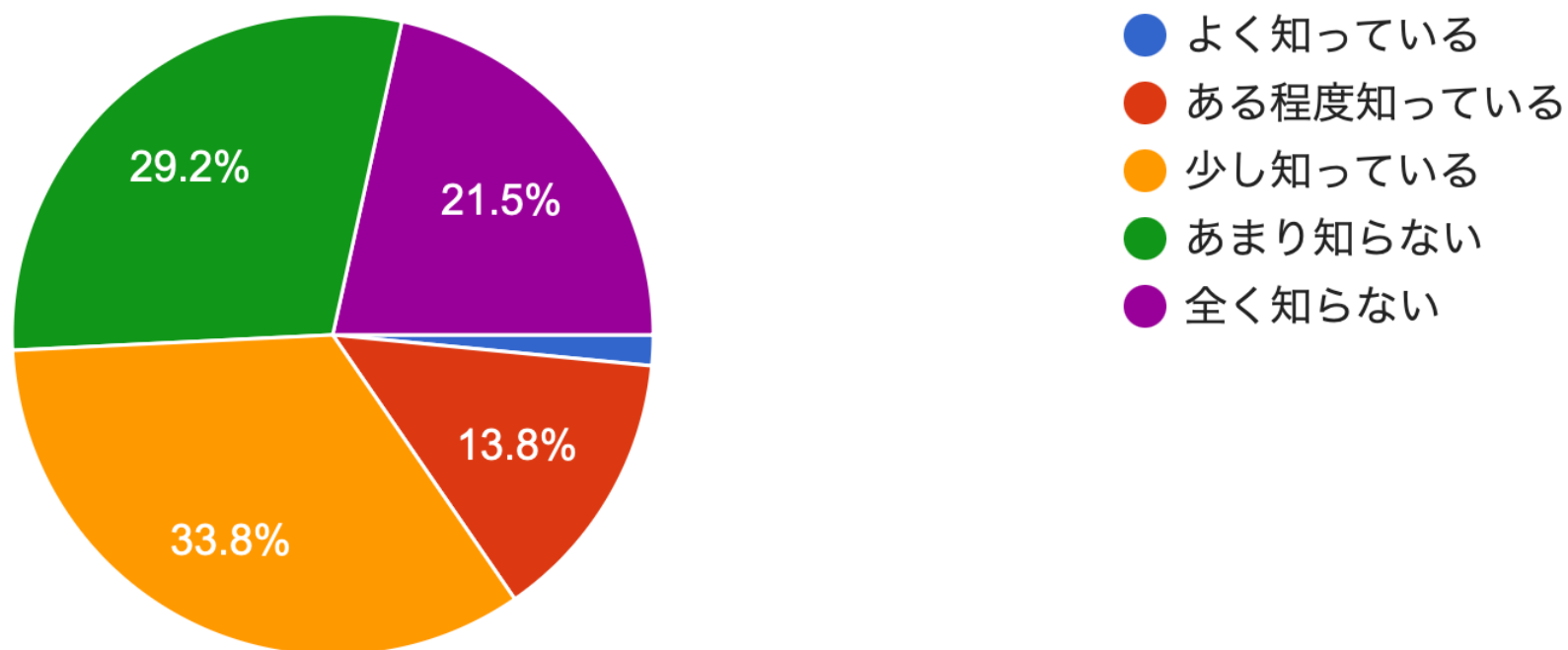
あなたの専門領域をご回答ください

66 件の回答



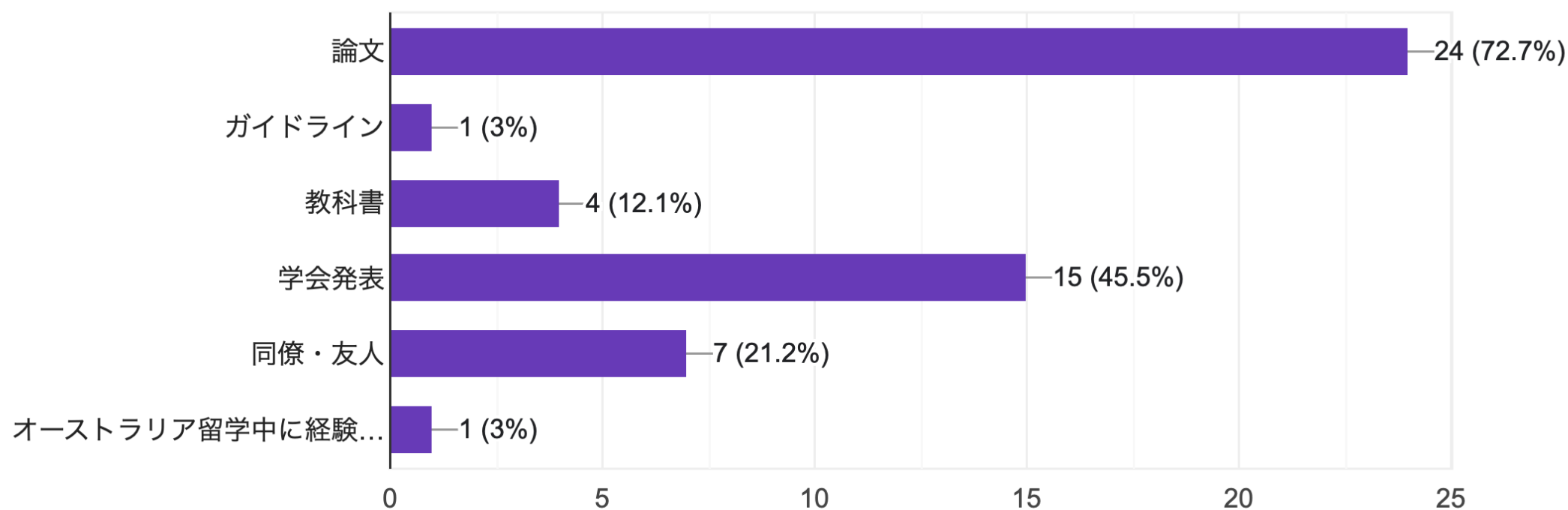
あなたはIsolated Limb Perfusionについて、どの程度ご存知ですか？

65 件の回答



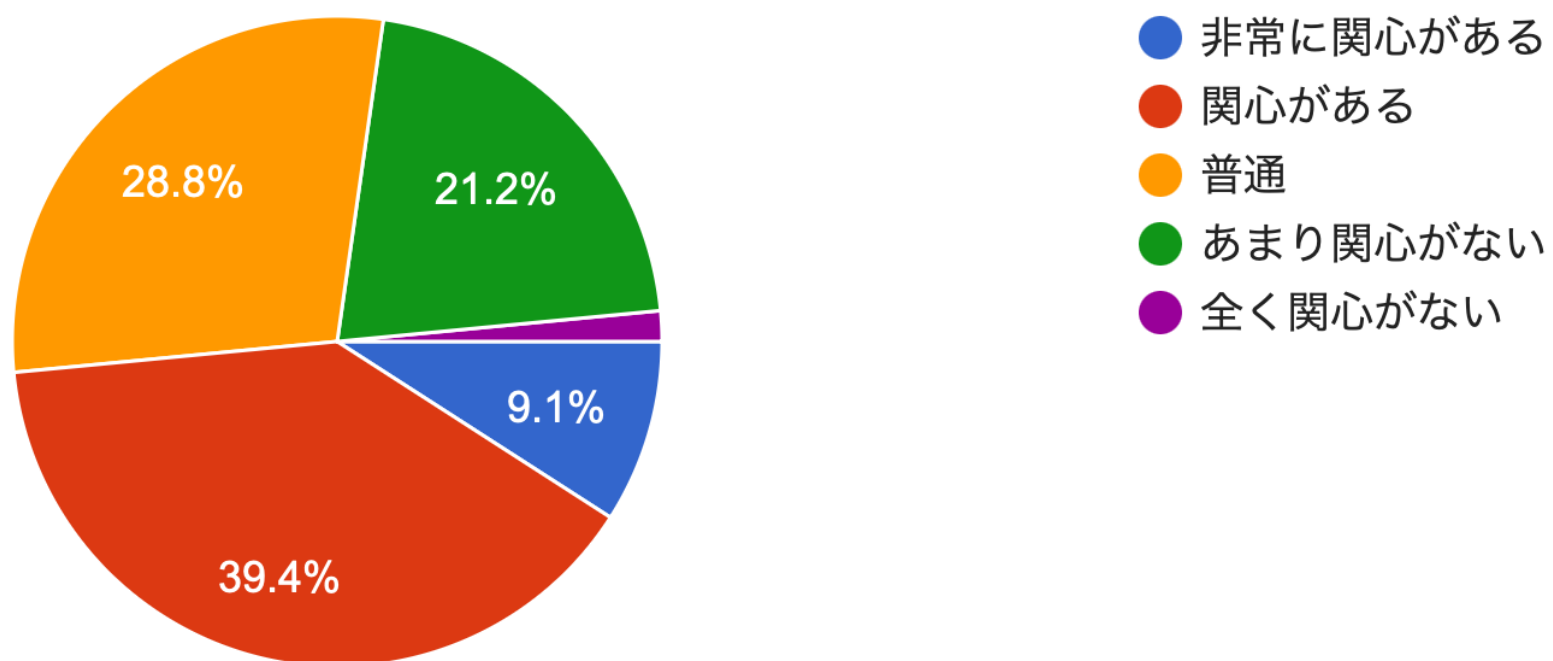
上の質問で「よく知っている」～「少し知っている」と答えた方にお聞きします。
どこでILPに関する情報を入手しましたか？（複数回答可）

33 件の回答



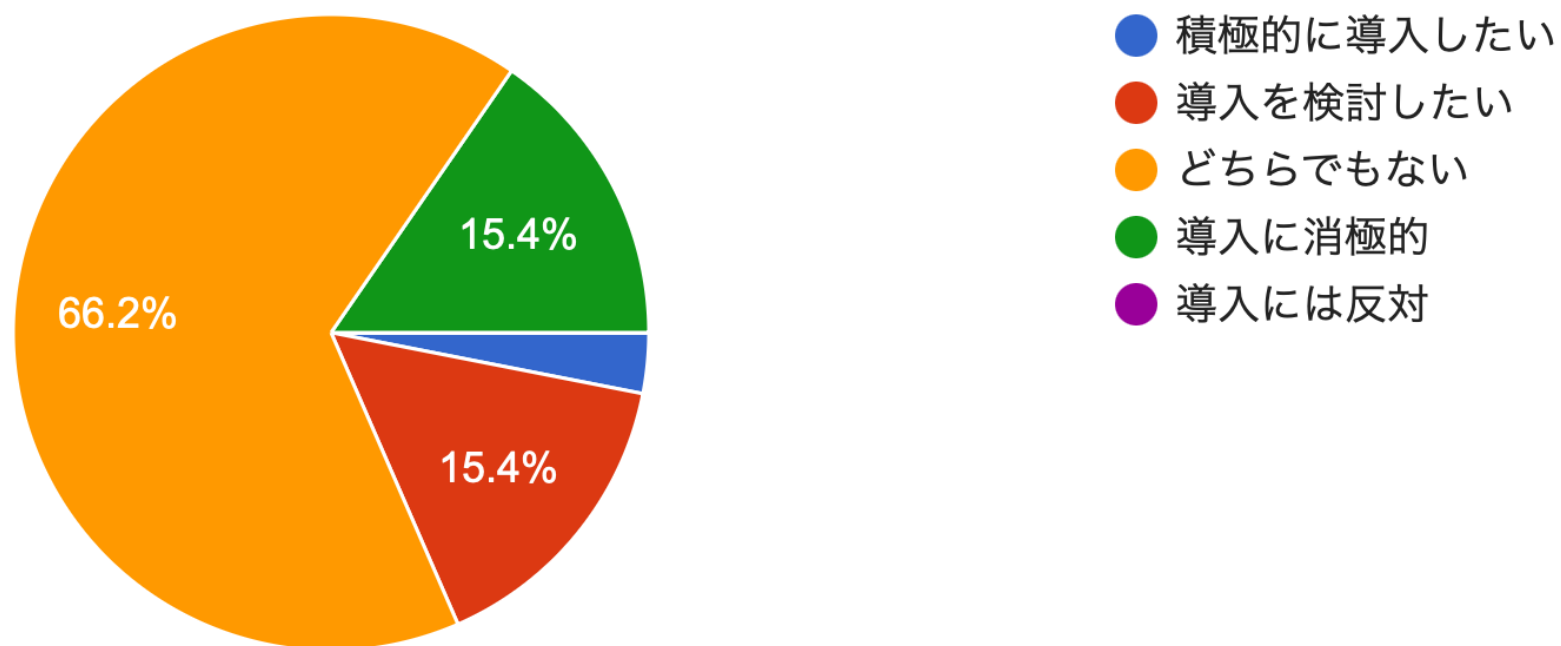
あなたはIsolated Limb Perfusionに関して、どのくらい関心がありますか？

66 件の回答



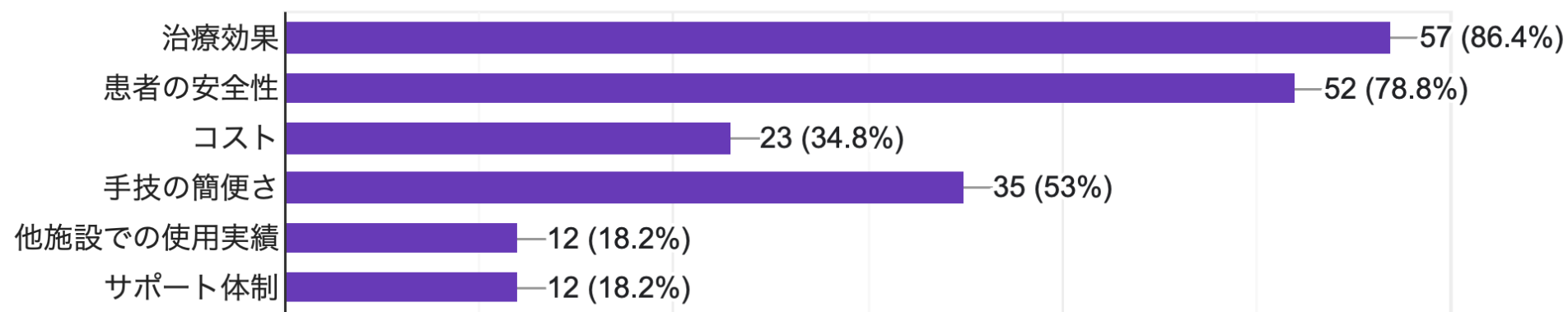
あなたはIsolated Limb Perfusionを導入することに対して、どの様に感じますか？

65 件の回答



あなたはIsolated Limb Perfusionの導入に関し、どの要素を重要視しますか？（複数回答可）

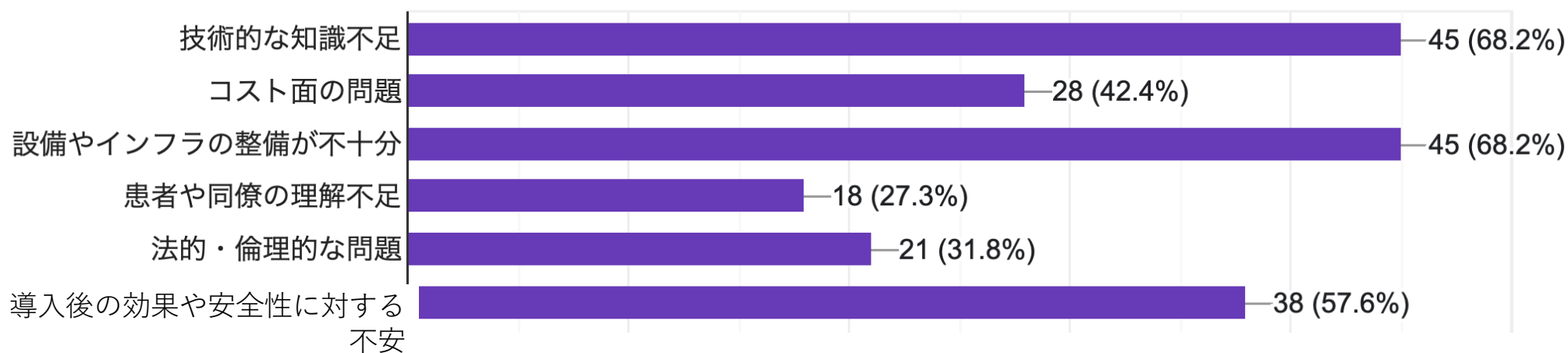
66 件の回答



その他(n=4)：治療選択枝の一つとしてあったほうが良い、わからない、など

あなたはIsolated Limb Perfusionの導入に関し、どのような障害を感じますか？（複数回答可）

66 件の回答



その他(n=3)：手術時間の延長や全身麻酔確保の問題、よく分かりません、など

あなたがIsolated Limb Perfusionに感じている課題や興味などについて、自由にご記入ください。

IVRの経皮的カテーテル留置が活用できそうに思います。肝腫瘍、骨盤腫瘍で、同様技術の報告があります。
ケモのために全麻酔を消化するのが難しい。実施に当たってはIVR科との調整が必要。そもそも保険適用になっていなければ研究費でもなければ行えない。JCOGなどで日本を含めたフェーズ3で明らかな差が出て保険収載されれば導入したい。
どの程度の腫瘍縮小効果があるのか。 一般的に軟部肉腫に使用することを想定するが、組織型によって治療効果に差があるのか。 ヨーロッパでは専用の設備を使用しているのか、あるいは一般的なターニケットと点滴の加温機を使用して行っているのか。
安全性の担保と効果についてのエビデンスの構築は不可欠だと思います
局所療法の一つであり概して劇的変革をもたらすような意義はないが、症例によっては有用と考える。
駆血帯による圧迫が、完全に血流を遮断できるのかが疑問です。
積極的に情報収集していきたいと思います。学会としてwebsiteなどでわかりやすい情報提供をいただけると嬉しいです。
知識として知ってはいるものの、実際に見たことがないので、学会などの際にデモがあると良いと思います。
知識の普及にムラがある印象です。積極的でない医療者はほど知識を得ていないことが、直接かかわらない医療者として心配です。十分な情報のない方に情報を得る、整理するチャンスが多いことを希望します。
転移症例でも薬剤を替えて使用できるとさらに選択の幅がでて面白いかなと感じました。新規研究応援しております。
煩雑そうです。四肢については導入する必要性が低いような気はします。後腹膜などでは難しいのでしょうか。いずれにしてもこういった治療なのか紹介してもらえたらありがたいです。
有効性などの知識がない
論文の成績では、Local control rate があまりよくないと思っています。